

⑫等々力溪谷の秋を満喫しよう！ 資料

2018.11.7

等々力溪谷は、「等々力溪谷の歴史」「ゴルフ橋」「野毛大塚古墳」「日本庭園」「等々力不動尊」「三号横穴」について詳しくパンフレットに説明されています。重複するのを避け、それ以外の見学場所を紹介します。

不動の滝は、800年ほど前に満願寺別院(等々力不動尊)が開創されたときに湧出したと伝えられています。この瀧の上に奉納した不動尊を安置したのが崖の上の御本堂の等々力不動尊です。四季に枯れることのないこの瀧をお瀧と呼んで、一心不乱に修行する人は今も多いです。

瀧は雄瀧、雌瀧の二条が流れていますが、どちらが雄瀧か雌瀧かは、調べてもよくわかりません。等々力の地名は一説に瀧の轟く音に由来すると言い瀧轟山(ゆうごうさん)という山号にもなっています。

荏原台古墳群

多摩川下流左岸には、世田谷区野毛周辺から大田区田園調布に広がる古墳群で50基あまりの古墳があしました。この古墳群は、世田谷区側を「野毛古墳群」、大田区側を「田園調布古墳群」と呼び、合せて「荏原台古墳群」と呼ばれています。

この一帯は、多摩川という水資源と広大で肥沃な平地を利用した弥生時代以来の生産性高い農耕社会を背景とする、強力な首長の治める政治的集団が存在したと考えられる。そして古墳時代を通じてこの地域が、その首長と一族の墓地として利用されていたので会います。

特徴として下記の点が挙げられます。

- ① 古墳時代全般にわたり古墳が作られ続けました
- ② 古墳形成の各段階に分布地域に偏りがある。
- ③ 地域により墳形が異なる傾向がある。



今回散策しますのは、野毛古墳群にあたります。そこで、基本の「古墳とは…」から紹介します。

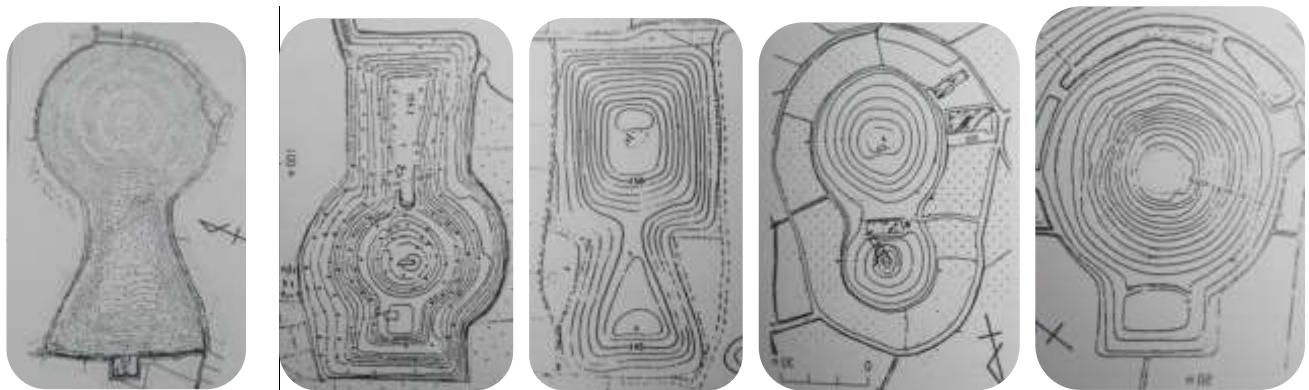
古墳とは…

古墳時代は、今から1700年から1300年も前のことで、弥生時代の前です。

古墳は、日本で3～7世紀にかけて築造された墳丘(ふんきゅう)のある墓を指します。墳丘墓の中でもこの時期のものを区別して古墳と呼びます。古墳に葬られる人は、古墳時代の権力者達とその一族の人達です。大きな古墳には装飾品、埴輪などが収められ、権力の大きさが規模の大きさに比例していると考えられています。日本では兵庫県、千葉県、鳥取県、福岡県、京都府に多く古墳があり、全国の総数で16万基を超えられています。

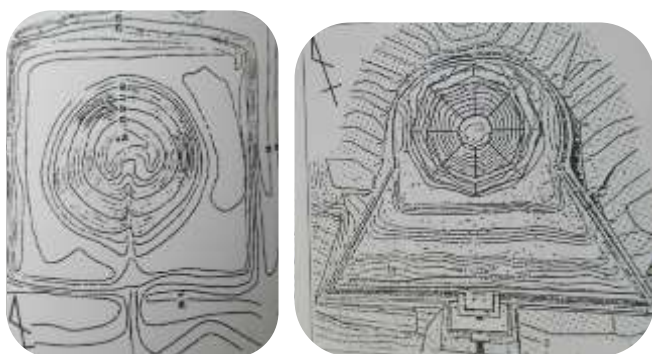
古墳の基本形には、円墳、方墳、八角墳、双方中円墳、上円下方墳、双方中方墳、帆立貝形古墳などの種類があり、山が二つある古墳では、前方後円墳、前方後方墳、双円墳、双方墳などがある。。

前方後円墳 双方中円墳 前方後円墳 双円墳 帆立貝墳



上円下方墳

八角墳



荏原台古墳群に存在する古墳

| 古墳群名 | 古墳名 | 時代 | 古墳の形 |
|------|--------|-------|------|
| | 野毛大塚古墳 | 5世紀前葉 | 帆立貝式 |
| | 天慶塚古墳 | 5世紀前葉 | 帆立貝式 |

| | | | |
|---------|---------------|---------------|-------|
| 野毛古墳群 | 御岳山古墳 | 5世紀中葉 | 帆立貝式 |
| | 八幡塚古墳 | 5世紀後葉 | 帆立貝式 |
| | 狐塚古墳 | 5世紀末 | 帆立貝式 |
| 田園調布古墳群 | 宝来山古墳 | 4世紀第2四半期 | 前方後円墳 |
| | 亀甲山古墳 | 4世紀後半 | 前方後円墳 |
| | 西岡第31・32号古墳 | 4世紀末～5世紀初 | 前方後円墳 |
| | 浅間神社古墳 | 5世紀末～6世紀初 | 前方後円墳 |
| | 西岡第28号古墳 | 6世紀後半 | 円墳 |
| | 多摩川台第1+2古墳 | 6世紀第4四半期後半 | 前方後円墳 |
| | 観音塚古墳 | 6世紀末 | 前方後円墳 |
| | 三島塚古墳 | 6世紀 | 墳形不明 |
| | 西岡第22号古墳 | 6世紀末～7世紀後半 | 円墳 |
| | 多摩川台第3・4号古墳 | 6世紀末～7世紀第1四半期 | 円墳 |
| | 多摩川台第5・6・7号古墳 | 6世紀末～7世紀第2四半期 | 円墳 |
| | 多摩川台第8号古墳 | 7世紀中頃 | 円墳 |
| | 浅間様古墳 | 7世紀中頃 | 円墳 |

御岳山古墳は、野毛古墳群のなかの1基で、全長54メートル、後円部直径40メートル、高さ7メートルで、野毛大塚古墳に次ぐ規模をもった大型の帆立貝形古墳です。大正6年(1917)年に七鈴鏡(ななれいきょう)が発見され、昭和25年(1950)に後円部墳頂で埋葬施設が発掘され、鉄製短甲2両や鉄製武器などが出土しています。また、平成4年と平成11年の発掘調査で、周溝から埴輪が出土しています。これらの出土品から、野毛大塚古墳から50年ほど後の5世紀中ごろ(約1,550年前)につくられた古墳と考えられます。因みに七鈴鏡とは、周縁に4～10個の鈴を付けた日本製の青銅鏡です。



狐塚古墳は、造出部付円墳ないし帆立式古墳との可能性があります。造出部が確認できないため、いまのところ円墳(直径約30m、高さ約4.6m)と推定され、5世紀第4四半期の造営と推定されます。この古墳は、墳丘から埴輪の破片が多数出土していて、頂上部には粘土にくるまれた木棺が埋蔵されていたと考えられています。また、縄文土器や石器、古墳時代の土器も出土していることから古墳が作られる前の時代からこの地域に人々が暮らしていたことが伺われます。「狐塚」という名の由来は、かつてここに小さな稻荷の祠が存在したためといわれます。



伝乗寺は 1592 年から 1596 年の間に建てられました。お寺には 1316 年の板碑が残っていた事から、もっと昔には庵のようなものが在ったのではないかとされています。



本堂は、小ぶりですが、築400年と言います。骨組みや正面唐獅子、側面獺の木鼻彫刻など大変すばらしいもので、一見の価値があります。また南側の「仁王門」には、左右に門屋があり仁王様がにらみを利かせています。

本尊は、木の座像の阿弥陀如来で高さは 3 尺ほどです。五重塔の築年数は、10年程だということでした。

宇佐神社

1052(永承 6)年朝廷から命ぜられ奥州平定に向かう源頼義が尾山に陣を張ったと言います。その際、空に白雲が八つに分かれて棚引き、源氏の白幡(しらはた)のように見えたのを大いに喜び、勝利の暁にはこの地に八幡社を創建することを誓いました。

9 年に及ぶ戦を終え、1063(康平 5)年奥州安倍氏を平定した頼義公は帰京の折に尾山の地を再び訪れ、八幡社を造営し勝利を報告したという。これが宇佐神社の創建とされています。

八幡塚古墳は、全長 33 メートル、後円部直径 30 メートル、高さ約 4 メートルで、小さな造出(つくりだし)と呼ばれる方壇がついた造出付円墳です。埋葬施設は、北主体部が箱形木棺の直葬で、南主体部は組合せ式の箱形石棺で、中央の主体部は未確認ながらも粘土槨であると推定されています。ここから銅鏡(獣形鏡)1 面、鉄刀 1 本、鉄槍 1 本、鉄鏃(てつぞく=鉄製の矢じり)30 本とガラス小玉 899 点が出土しています。この主体部は八幡塚古墳では最後に行われた埋葬で、野毛古墳群の首長層を構成する階層に属する人物のお墓と考えられています。末社(おまつしゃ)の中には、4つの祠があります。右から狐塚古墳から移設された**稻荷社**、元々祀られていた**神明社**、御岳山古墳から移設された**御岳社**、天慶塚から移設された**天慶の祠**です。古墳から古墳へ渡り歩いた神様がこれだけ並んでいるというのはなかなか珍しい光景です。



浄真寺の地は、もともとは世田谷吉良氏の奥沢城でした。小田原征伐後同城は廃城となりました。寛文 5 年(1675 年)に当地の名主七左衛門が寺地として貰い受け、延宝 6 年(1678 年)、珂碩上人(かせき)が同地に浄真寺を開山しました。本尊は釈迦牟尼仏で浄土宗です。

本堂には上人の彫りあげた釈迦牟尼仏を中心に、右に善導大師、左に法然上人の像が安置されています。中でも右側にある珂碩上人像は乾漆製の芸術価値の高いものである。堂の隅には、ぴんずる尊者像があります。本堂は総檜造りで、昭和 42 年修築し、葺屋根を銅葺にかえられました。

三佛堂は、本堂の対面に「上品堂」(じょうぼんどう)「中品堂」「下品堂」の3つがあります。それぞれに3体合計9体の印相の異なった阿弥陀如来像が安置されています。浄土教における極楽往生の9つの階層を表しており、これらをあわせて九品(あるいは九品往生)と言います。この九品の仏から、浄真寺は通称「九品仏」と呼ばれています。

閻魔堂は、総門を入れて直ぐの右手にあります。そこには閻魔像と葬頭河婆像(そうずかばあ)が安置されています。

鐘楼は、山門を潜って左にあります。

鐘の大きさは、直径3尺、高5尺。世田谷領の深沢、谷岡又左衛門の寄進です。作は、神田鍛冶町の河合兵部郷藤原周徳。堂屋も檜造りで欄間には十二支がはられ、北に子、南に午が彫られています。

山門は紫雲楼といい、一对の仁王様、楼上には阿弥陀如来と25菩薩の像が安置されているほか、風神・雷神の像もあって地域全体の安全が意図されています。

釈迦牟尼仏



阿弥陀如来



閻魔像



葬頭河婆像



鐘楼



山門

